

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」第3巻

はじめに

病気がきっかけで神仏の教えに出合った私は、この教えに導かれながら、人としてどのような心の紋様で日々暮らすべきかを問う心の修行を通じて、霊格を向上させるための真髓とも言えるとても大切な真理と摂理の存在を大自然から学びました。

この真理と摂理は誰に対しても平等に働き、かつこの世に平和と調和と秩序を^{もたら}すもので、実に美しく完璧な法則です。

その真理と摂理とは次のようなものです。

- ・命は、周りの人々（＝全生命体：以下同じ）を幸せにするために天から授かった。
- ・体は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・言葉は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・知恵は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・お金は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・時間は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・天が与えてくれる太陽の光、空気、雨の水、海と山の幸、天然資源、時間、空間、これらはとても大切なもの。しかし、これらはすべてただである。そしてこれらのものは偉大過ぎるが故に人々からあまり感謝されない。だから、私たちも天を見習って、たとえ周りから感謝が返ってこなくとも自分の大切なものをただで、周りの人々を通して天に返すべきである。
- ・人類が、この物質界（生きるために他の生物の命を頂く世界、あるいは敗者の悔しさを土台に勝者としての喜びを^{おうか}謳歌している世界。このために食料・経済・領土等の利害が衝突して争い・憎しみを生む世

界)である地上に生を享けた目的は、これらの真理を悟り実践するためである。

・この真理にしたがって生きる者(真理的实践者)は、愛と知恵と勇氣と希望が天から与えられ、これによって人生で出合うあらゆる試練を克服しながら靈格を向上させ、幸せになることができる。反する者(反真理的行為者)は、愛と知恵と勇氣と希望が天から没収され、誰も愛することができず、また愛されることもなく、試練を避け、やがて悪想念に冒され靈格は低下し、出合う試練を乗り越えることができず、悩み苦しむ人生を送ることになる。

・言ったことは言われ、やったことはやり返され、思ったことは思われる。この摂理は天秤で量ったような数学的正確さをもって作用する。つまり、周りの人を幸せにした分だけ自分自身も幸せになり、苦しめた分だけ苦しむことになると言う摂理。だから相手を幸せに導く、あるいは幸福感を味わってもらえるような言葉を掛け、行動をとり、思いを掛ける。この摂理を知り、正しい道を選択した者は幸せになり、この摂理の存在に気付かず周りの人に苦しみを与えた者は、その罪の代償を自ら払うことになる。

やがて大自然が語る大法を理解し真理に目覚め、次第に光り輝く神仏の世界の存在を確信することができるまでに靈格が向上すると、生きるために他の生物の命を頂かなければならない、あるいは、弱者(人、物、もの、チーム、国)を踏み台にしなければならない、悪意に満ちた、この物質界での生活(修行)は、この現世をもって最後にしたいと考えるようになる。そしてできるだけ多くの人々に、美しい真理の世界を知ってもらいたいと願うようになるのではないかと考えます。

私は、これらの真理と摂理の働きが真実であると確信される靈格にまで1人でも多くの方が辿り着かれ、そしてこの人たちが天使のごと

く振る舞われることによって、全世界の人々が等しく戦争の恐怖と飢えの苦しみから解放され、希望と調和と秩序に満ちた平和で平等な(独裁者などが存在しない)成熟した社会が齎されることを願って「虹の掛け橋」を書かせて頂いております。

なお、デリケートな問題を抱えているテーマについては、重複文章が連なることをお断りします。

この本が、皆様にとって少しでも参考になれば幸いです。

2020年3月30日

(著者) 宇都宮 大地

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」第3巻 目次

はじめに.....	1
第 21 章 赤ん坊のようにすべて神仏に^{ゆだ}委ねる.....	6
1 まんじゅうを分かち合う.....	6
2 裸で神仏の腕の中に帰ってゆく.....	15
3 表紙の図柄.....	18
第 22 章 神仏の愛はいつでも、どこでも	
誰にでも無限に注がれている.....	29
1 仏と菩薩.....	29
2 社会に有毒なもの.....	35
3 「主」と「 主 」.....	40
第 23 章 虹を^み通って彼岸に辿り着く.....	43
2人で1つの天.....	43
第 24 章 善想念で宇宙空間を満たす.....	68
黄金律.....	68
第 25 章 罪深き者たちが救われる.....	92
1 救いの ^み 御業 その1.....	92
2 救いの御業 その2.....	95

第 26 章	善想念の世界で引かれ合う	102
1	救いの御業 その 3.....	102
2	桜の花	106
3	ひび割れた水瓶 <small>みずがめ</small> （前段）	118
第 27 章	柔軟 <small>じゅうなん</small> に対応する	124
1	出入り禁止	124
2	長生きできるタイプの人	132
第 28 章	罪を代わりに背負っていている	
	人の存在を知る	135
1	「人」の文字に託された仏の境地	135
2	三途 <small>さんず</small> の川を自力で渡れなかった人たち	142
第 29 章	人を愛した人こそ愛に包まれた	
	人生を送ることができる	149
1	牛乳を配達する人	149
2	キューピッドの矢	151
3	「 <small>ざる</small> 」で雨を受ける	158
4	仏は少しずつ人を導く	161
5	守護霊	163
6	献杯 <small>けんぱい</small> のあいさつ	168
7	除夜 <small>じょや</small> の鐘 <small>かね</small>	170
第 30 章	生き甲斐 <small>が い</small> を吹き込む	173
1	ひび割れた水瓶（後段）	173
2	天	176